

医療資源を最も投入した傷病名	患者数
C型急性肝炎	2
感染性心内膜炎の疑い	2
急性巣状細菌性腎炎	2
大胸筋筋膿瘍	2
敗血症	2
肺ノカルジア症	2
HIV-1感染症	1
HIVカリニ肺炎	1
HIV感染	1
HIV感染症	1
ウイルス感染症	1
ウイルス性髄膜炎の疑い	1
悪性リンパ腫の疑い	1
悪性症候群	1
右急性肺炎	1
化膿性関節炎・仙腸関節	1
感染性心内膜炎	1
感染性動脈瘤	1
顔面丹毒	1
急性腎盂腎炎	1
急性扁桃炎	1
結核性胸膜炎	1
結核性髄膜炎	1
血球貪食症候群	1
腰椎化膿性脊椎炎	1
細菌性髄膜炎	1
細菌性肺炎	1
神経梅毒	1
腎梗塞	1
腎盂腎炎	1
前腕有棘細胞癌	1
全身性エリテマトーデス	1
総胆管結石性胆管炎	1
大動脈炎症候群の疑い	1
腸チフス	1
低カリウム血症周期性四肢麻痺	1
伝染性単核症	1
尿路感染症	1
脳炎	1
脳膿瘍	1
膿胸	1
肺炎球菌肺炎	1
反応性関節炎	1
複雑性尿路感染症	1
連鎖球菌性咽頭炎	1
合計	51

**【考察】**

感染症の入院症例については、総合診療内科と感染症科・感染制御科との合同診療の形式で診療を行っている。

2021年度においては、昨年度と同様に主たる診療対象が中等症から重症のCOVID-19とならざるを得なかった点はあるものの、それ以外の感染症領域の疾患についての診療、コンサルテーションも縮小することなく継続した。診療科の性質上、他科入院中の感染症例の併診が多いが、他科・他院からの紹介(総合診療内科宛)や直接来院される症例で、敗血症や髄膜炎、感染性心内膜炎などの重篤な感染症疑い・確定例、不明熱精査目的症例、HIV感染症などの各種ウイルス感染症、抗酸菌感染症(結核菌排菌症例を除く)など感染症領域全体にわたって入院診療を担当した。

これ以外にも、血液培養陽性症例や院内における抗菌薬適正使用について毎日スタッフが確認を行い、担当診療科宛て助言も行っている。2022年度も業務内容は大きく変わることはなく、引き続きCOVID-19や各種感染症例の入院診療を行う予定である。